

目次

I. 総括研究報告書

- 広域・複雑化する食中毒に対応する調査手法の開発に関する研究…………… 1
砂川 富正

II. 分担研究報告書

1. 腸管出血性大腸菌O157の広域散発例の探知と疫学調査に関する研究…………… 17
八幡 裕一郎
2. 腸チフスの広域散発事例の調査方法構築に関する研究…………… 28
八幡 裕一郎
3. インターネットを利用した症例対照研究の有効性に関する研究…………… 35
八幡 裕一郎
4. 広域事例（旅行歴）に関する腸管出血性大腸菌アウトブレイクの検出及び
原因検索方法の確立に関する研究…………… 39
八幡 裕一郎
5. 詳報、事件票を活用した食中毒発生要因分析と食中毒調査手法の課題抽出…………… 42
八幡 裕一郎
6. 腸管出血性大腸菌感染症で溶血性尿毒症症候群を発症した患者を対象とする
追跡研究…………… 59
齊藤 剛仁
7. 広域食中毒疫学調査ガイドライン改訂の検討に関する研究…………… 68
高橋 琢理
8. 宮城県および全国における積極的食品由来感染症病原体サーベイランスならびに
下痢症疾患の実態把握（食品媒介感染症被害実態の推定）…………… 70
窪田 邦宏
9. 全国における食品への異物混入被害実態の把握（食品媒介感染症被害実態の推定）…………… 105
窪田 邦宏
10. 1. 流通食材における食中毒原因菌の汚染状況調査
2. 感染症・食中毒業務担当者を対象とした疫学研修とその効果…………… 163
砂川 富正
11. ウイルスを主とした広域事例調査手法の検討…………… 168
野田 衛

12. クドア食中毒様の症状を示す原因不明食中毒に関する研究.....	174
大西 貴弘	
13. アニサキス食中毒の原因物質の同定.....	201
杉山 広	
Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表	207